

奈良県感染症情報

令和6年第13週(3月25日～3月31日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- RSウイルスについて
- 病原体(ウイルス)検出情報(3月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | |
|----|--------------|-------|--------|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 4.91 | (4.24) | → |
| 2 | 新型コロナウイルス感染症 | 4.69 | (5.31) | → |
| 3 | インフルエンザ | 3.98 | (5.73) | → |
| 4 | RSウイルス感染症 | 3.38 | (1.88) | ↑↑ |
| 5 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.26 | (1.85) | → |

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↔やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.91で、前週の4.24に比べて増加しました。手指や食品を介して感染するため、調理や食事の前、トイレに行った後、下痢等の患者の汚物処理やおむつ交換等を行った後の入念な手洗い、食品の衛生的な取り扱い、十分な加熱調理などが感染予防対策として有効です。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は4.69でやや減少、インフルエンザの定点当たり報告数は3.98で減少となっていますが、引き続き、換気、消毒、人との距離の確保及びマスクの着用といった感染予防対策をお願いします。

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は3.38で前週の1.88に比べて急増しています。中和抗体所管内西部地域では定点当たり報告数が9.83と特に多くなっています。令和4年、令和5年と流行時期が年々早まっているので注意してください。

A群溶連菌咽頭炎は定点当たり報告数が2.26で前週の1.85に比べて増加しています。地域別では、中和抗体所管内西部地域で報告数が多い状態です。

◆RSウイルスについて◆

RSウイルス感染症は全ての年齢で何度も感染し、特に2歳までにほぼ100%の児が少なくとも1度は感染するとされています。感染経路は「接触感染」と「飛沫感染」で、手洗いやアルコール消毒、マスクの着用、人混みを避けるなどの感染予防対策が有効です。乳幼児の場合はおもちゃやなめらかめることもあるので、共用を避け、洗浄消毒することも効果的です。

◆病原体(ウイルス)検出情報(3月)◆

*ウイルス分離判定日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|--------------------|----|----|----|-----|------------------------------|
| インフルエンザ AH1pdm09 | 1 | | | | インフルエンザ(1) |
| インフルエンザ AH3 | | 1 | | | インフルエンザ(1) |
| インフルエンザ B (ヒトリア系統) | 8 | 3 | | | インフルエンザ(10) インフルエンザ様疾患(1) |
| ヘルペス | 6 | 2 | | | 手足口病(1) 発疹症(1) |

奈良県感染症情報

令和6年第14週(4月1日～4月7日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 3月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況
- ◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | |
|----|--------------|-------|--------|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 |
| 1 | 新型コロナウイルス感染症 | 5.24 | (4.69) | → |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.76 | (4.91) | → |
| 3 | RSウイルス感染症 | 2.91 | (3.38) | ↑ |
| 4 | インフルエンザ | 2.07 | (3.98) | ↓ |
| 5 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.06 | (2.26) | → |

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↔やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルス感染症は第6週から減少傾向におおったものの、今週の定点当たり報告数は5.24で前週よりも増加しており、注意が必要です。換気、消毒、人との距離の確保及びマスクの着用といった感染予防策を心がけ、体調を整えるようにしましょう。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3.76です。下痢や嘔吐の症状がひどい場合には、脱水症状を起こすことがあります。また乳幼児や高齢者は、おう吐物を気道内に吸い込むことによる肺炎や窒息にも注意してください。

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は2.91です。RSウイルスに感染すると2～8日の潜伏期間を経て発熱や鼻水などの症状が数日続きます。多くは軽症で自然軽快しますが、重症化すると気管支炎や肺炎の兆候が見られ、中には呼吸困難を起こして入院することもあります。感染によって重症化するリスクの高い基礎疾患を有する小児や高齢者、生後6か月以内の乳児への感染には、特に注意が必要です。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

インフルエンザ、COVID-19が減少している。
RSウイルス感染症とウィルス性と思われる感染性胃腸炎が増加しているものの、全体の受診数は減少している。

幼児での発熱と咳にはマクロプラズマ気管支炎があった。
幼児での発熱と咳にはマクロプラズマ気管支炎があった。

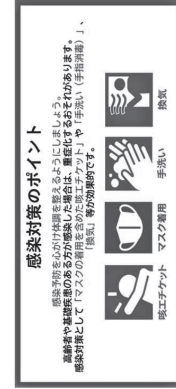
中部地区(岡本内科子どもクリニック)

COVID-19、インフルエンザともかきよりの減少。
A群溶血性連鎖球菌が増加。咽頭痛とかきよりの高熱、
hMP陽性例もあった。RSは減少。
感染性腸炎も減少したが少しずつ持続。手足口病も見られた。

(特殊な経過の症例の報告)
手足口病後水疱、丘疹の経過後に紫斑に移行しS-H紫斑病との経過となり、その後弟がA群溶血性連鎖球菌陽性＋手足口病となつた例があった。
姉がIgA腎症で入院したので経過により特記すべき事項あれば継続して報告する。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザは減少。COVID-19は横ばい。アデノウイルス咽頭炎や溶連菌感染症の流行は概ね減少傾向あり。ウィルス性胃腸炎の流行は続いている。



出版:厚生労働省 HP
(<https://www.nhlw.go.jp/seisaku/saitu/bunya/000016/4708.00001.html>)



奈良県感染症情報

令和6年 第15週(4月8日～4月14日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- マダニに刺されないように注意しましょう

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | |
|----|--------------|-------|--------|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 |
| 1 | 新型コロナウイルス感染症 | 4.60 | (5.24) | → |
| 2 | RSウイルス感染症 | 4.18 | (2.91) | ↑ |
| 3 | 感染性胃腸炎 | 3.88 | (3.76) | → |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.62 | (2.06) | → |
| 5 | インフルエンザ | 1.71 | (2.07) | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の判断を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

新型コロナウイルスの定点当たり報告数は、4.60で横ばいとなっています。感染拡大を防ぐため、日々の体調管理と換気・消毒・人との距離の確保及びマスクの着用などの対策を引き続きお願いします。
RSウイルス感染症の定点当たり報告数は4.18で、前週の2.91に比べて増加しました。地域別では中和保健所管内西部地域の定点当たり報告数が12.0と特に多くなっています。RSウイルス感染症はRSウイルスによって引き起こされる呼吸器の感染症です。症状は発熱、咳、鼻汁などの咳い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。感染対策として、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどをアルコールや塩素系の消毒剤で消毒すること、流水・石けんによる手洗い、アルコール製剤による手指衛生、症状がある人はマスクを着用することが大切です。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3.88です。食事前やトイレの後などには、必ず手を洗いましょう。

◆マダニに刺されないように注意しましょう◆

ダニがウイルスや細菌などを保有している場合、刺された人が病気を発症する場合があります。特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに刺される危険性が高まります。草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合は対策をしましょう。また、帰宅後は入浴し、マダニに刺されていないか確認しましょう。

○マダニに刺されないための対策

- ✓ 長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくしましょう。
- ✓ 服はマダニを相認しやすく、明るいものを着用しましょう。
- ✓ 虫除け剤を使用しましょう。虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあります。

○マダニに刺された場合

- ✓ 吸血中のマダニに気づいた場合、無理に引き抜かず、医療機関(皮膚科)で処置してもらいましょう。
- ✓ マダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

(参考)ダニ媒介感染症(厚生労働省 HP)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>



奈良県感染症情報

令和6年 第16週(4月15日～4月21日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 海外へ渡航される方へ
- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | |
|----|--------------|-------|--------|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 |
| 1 | RSウイルス感染症 | 6.09 | (4.18) | ↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.12 | (3.88) | → |
| 3 | 新型コロナウイルス感染症 | 4.62 | (4.60) | → |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.53 | (2.62) | ↑ |
| 5 | インフルエンザ | 1.35 | (1.71) | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の判断を行っておりません。
増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑**急増、**↑**増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

上位5疾患について、インフルエンザ以外は全て前週の定点当たり報告数を上回っています。RSウイルス感染症の定点当たり報告数は6.09で増加が続き、令和4年のピークを上回りました。特に、中和西部地域では16.83で注意が必要です。RSウイルス感染症は、乳幼児以外でも感染し、何度もあり得ます。肺炎など重症化する場合もありますが、治療方法は対症療法しかありません。一度かかったことがあるからと油断せず、手洗いやマスク着用といった基本的な感染予防対策をしましょう。
感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.12で、前週の3.88から増加しています。気温が急に上昇するこの時期は細菌による食中毒なども増えてきます。食品の常温放置等を控えるなどの対策をお願いします。

◆海外へ渡航される方へ◆

世界では麻疹(はしか)やデング熱(蚊媒媒介感染症)など注意が必要な疾患が流行しています。渡航先の流行情報や感染予防対策などは、FORTH(<https://www.forth.go.jp/topics/fragment.html>)で調べることができます。正しい知識と予防方法を身に付けて、安全に過ごしてください。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

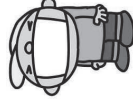
COVID-19、インフルエンザは少なく珍しくなった。乳幼児のRSウイルス感染症は流行中、兄弟間での感染例も多く見られる。溶連菌感染症は学童に見られる。幼児では感染迅速検査キットでは陽性とならない気管支炎、気管支肺炎、気管支肺炎例が見られる。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは殆ど見られなくなった。COVID-19はまだ散発に見られる。
A群溶血性連鎖球菌、IMPなどの検査陽性例が見られた。
手足口病は減少、その他ウイルス性発疹症と思われる発疹例が散見された。
感染性胃腸炎の流行があり、家族内で幼児から成人へ波及している例もある。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザは減少。COVID-19は少数散見されている。症状は小児では普通感冒様。乳幼児でRSウイルス感染症が増加している。入院例も、アデノウイルスも増加傾向がみられる。またコクサッキーウイルス感染症様のウイルス性発疹症も数例認められた。
遷延する発熱、咳嗽ではトメタニューモウイルス、パラインフルエンザ1型および3型がみられた。肺炎も併発していた。胃腸炎は減少している。



次回週報は2024年5月7日(火)発行予定



奈良県感染症情報

令和6年 第17週(4月22日～4月28日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(4月)
- 手足口病

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 中部 | 南部 |
|----|--------------|-------|------|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | |
| 1 | RSウイルス感染症 | 5.32 | 6.09 | ↗ | ↗ | ↗ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.29 | 5.12 | ↗ | → | ↘ |
| 3 | 新型コロナウイルス感染症 | 3.19 | 4.62 | ↘ | ↘ | ↘ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.94 | 3.53 | → | → | ↗ |
| 5 | 手足口病 | 1.06 | 1.29 | ↗ | ↗ | → |

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↔横ばい、↘やや減少、↙減少

◆県内概況◆

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は5.32です。前週の6.09と比べて減少しましたが、依然として高い水準で注意が必要です。重症化しやすい乳幼児のいる家庭では手洗い等の感染防止へ配慮をお願いします。

A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.94です。A群溶連菌咽頭炎はA群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症で、特に学童期の小児が最も多くかかる病気です。感染者との濃厚接触を避け、うがいや手洗いをし、感染対策を心がけましょう。

手足口病の定点当たり報告数は1.06です。手足口病は、手、足および口腔粘膜などに現れる水疱性発疹が特徴のウイルス性感染症で、感染経路は接触感染と飛沫感染とされています。患者から検出されるウイルスには多様性があり、流行における主要なウイルスは年によって異なります。主に夏季に流行がみられるため、これからの季節には注意が必要です。

◆病原体(ウイルス)検出情報(4月)◆

*ウイルス分離判定日での集計結果

| 検出病原体 | ウイルス分離判定日での集計結果 | | | | 臨床診断名 |
|---------------------------|-----------------|----|----|-----|------------|
| | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | |
| インフルエンザ B (ベクトリア系統) | 3 | | | | インフルエンザ(3) |

◆手足口病◆

手足口病はその名が示すとおり、口腔粘膜および手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症で、コクサッキーA16(CA16)、CA6、エンテロウイルス71(EV71)などが原因ウイルスです。ヒトヒト伝播は主として咽頭から排泄されるウイルスによる飛沫感染とありますが、便中に排泄されたウイルスによる経口感染、水疱内容物からの感染などがあります。便中へのウイルスの排泄は長期間にわたり、症状が消失した患者も2～4週間におわり感染源になります。通常のCA16およびEV71による手足口病では3～5日の潜伏期をおいて、口腔粘膜、手のひら、足底や足背などの四肢末端に2～3mmの水疱性発疹が出現します。時に肘、膝、でんなどにも出現することもあります。予防としては有症状中の接触予防策および飛まつ予防策が重要であり、特に手洗いの励行などは重要です。患者あるいは回復者は、特に排便後の手洗いの徹底をお願いします。

手足口病とは(国立感染症研究所HP)https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansen/norashishi/441-hfmd.html



奈良県感染症情報

令和6年 第18週(4月29日～5月5日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 4月報(月単位)報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|--------------|-------|------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | RSウイルス感染症 | 3.21 | 5.32 | ↘ | → | ↘ | |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.97 | 5.29 | ↘ | ↘ | → | |
| 3 | 新型コロナウイルス感染症 | 1.85 | 3.22 | ↘ | ↘ | ↘ | |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.52 | 2.94 | ↘ | ↘ | ↗ | |
| 5 | 手足口病 | 1.36 | 1.06 | ↗ | ↗ | → | |

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)

※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません

増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、↔横ばい、↘やや減少、↙減少

◆県内概況◆

大型連休があり医療機関の休診で定点当たりの報告数が減少しているようですが、注意を怠らないことが大切です。

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は3.21で、過去10年平均よりも高い傾向です。感染予防のため、手洗いは流水と石けんにてまめにし、タオルの共用は避けて下さい。特に小さい子供がいる家庭では日常的に触れるおもちゃなどの消毒を行うことも効果的です。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2.97と例年並みです。感染性胃腸炎は、多くがノロウイルスやロタウイルスなどウイルス感染症が原因ですが、気温が上昇する時期には細菌感染によるものにも注意が必要です。しっかりと手洗いすることや衛生的な食品の取り扱いを心がけましょう。

手足口病の定点当たり報告数は1.36で、先週の1.06と比べて増加しました。手足口病は、過去10年平均では7月頃にピークを迎える疾患で、今後増加していくと予想されます。手足口病は、自身で感染対策が十分できない乳幼児の集団生活において、集団感染が起こりやすいため、注意を怠りません。保育施設等では特に注意を心がけてください。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

COVID-19、インフルエンザは珍しくなった。
溶連菌感染症、アデノウイルス咽頭炎、嘔吐を伴う感染性胃腸炎、手足口病は一定数の発生がある。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

COVID-19、インフルエンザともに散見程度となった。
感染性腸炎が流行。A群溶血性連鎖球菌は減少。
手足口病は減少、今年度は、口内炎は少なく、発疹が特徴的で水泡少なく潰瘍形成で四肢全体に(軀幹にも)発疹する例が多かった。
呼吸器感染症がみられるがRSウイルスは減少した。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

COVID-19は散見されるのみ、小児では大部分が普通感冒様症状で経過している。
インフルエンザも減少。B型が散見されるのみ。
アデノウイルス咽頭炎や溶連菌感染症は横ばい。胃腸炎も横ばい。
遷延する呼吸器感染症からはパラインフルエンザ3型が数例検出された。肺炎併発し、入院例もいる。



奈良県感染症情報

令和6年 第19週(5月6日～5月12日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- エイズ(後天性免疫不全症候群)とHIV(ヒト免疫不全ウイルス)と、検査について

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | 中部 | 南部 |
|----|--------------|-------|----------|----|----|
| | | 定点当たり | 増減(前週) | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 4.50 | (2.97) → | → | ↗ |
| 2 | RSウイルス感染症 | 3.35 | (3.21) → | → | ↘ |
| 3 | 新型コロナウイルス感染症 | 2.67 | (1.85) → | → | → |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.53 | (1.52) → | → | → |
| 5 | 手足口病 | 2.35 | (1.36) ↑ | ↑ | → |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の定点あたり報告数は4.50で、前週の2.97から増加しています。手指や食品を介して感染するため、食事前やトイレの後は必ず手を洗い、食品を衛生的に取り扱う等、感染予防対策をお願いします。
 RSウイルス感染症の定点あたり報告数は3.35でまだ多い状況が続いています。近年、RSウイルス感染症の流行時期が早まっており、今年は昨年よりもさらに早い時期での流行が見られるので、引き続き今後の動向に注意が必要です。
 手足口病の定点あたり報告数は2.35で、過去5週間平均数と比べて増加傾向です。手足口病は、口の中心や手足などに水疱性の発疹が出る感染症で、ウイルスの感染によって起ります。子どもを中心に、主に夏頃流行するので、乳幼児が集団生活をしている保育施設や幼稚園などでは注意が必要です。治った後にも比較的長い期間、便にウイルスが排泄されることもあるので、おむつを交換する時には、排泄物を適切に処理し、流水と石けんで十分手を洗いましょ。

◆エイズ(後天性免疫不全症候群)とHIV(ヒト免疫不全ウイルス)と、検査について◆

エイズは、HIVの感染によって起こる病気です。感染すると、数年～十数年の無症候期を経て、免疫の働きが徐々に低下し、健康な状態ではかかることのない病原体にも感染しやすくなり、さまざまな病気を発症します。この病気の状態を「エイズ」といい、発症後未治療の場合の予後は2～3年です。HIVは血液、精液、膈分泌液などに多く含まれますので、それらが粘膜や傷のついた皮膚に触れないようにすることが必要です。一番多い感染経路である性行為の場合、HIV感染を防ぐためには、必ずコンドームを使用すること、また、相手に使用してもらったことが重要です。保健所ではHIVの検査を無料で実施しています。
 「HIV検査普及週間(6月1日～7日)」には、県内の保健所で特別に夜間検査を実施しています。少しでもHIV感染の心配があれば、検査を受けてみて下さい。

| 保健所名 | 所在地 | 電話番号 |
|--------|----------------------------|--------------|
| 奈良県保健所 | 奈良市三条本町13-1 | 0742-93-8397 |
| 郡山保健所 | 大和郡山市瀬原寺町60-1 (郡山総合庁舎内) | 0743-51-0194 |
| 中和保健所 | 橿原市常盤町605-5 (橿原総合庁舎内) | 0744-48-3037 |
| 吉野保健所 | 吉野郡下市町新住15-3 | 0747-64-8132 |

※電話番号対称: 平日9時～17時
 ※氏名等: 匿名での受検可能

HIV感染経路

- ・性行為による感染(精液・膈分泌液)
- ・血液を介しての感染(注射器の共用、針さしなど)
- ・母子感染(胎内や母乳から)

検査を受けるタイミング

- ・感染した可能性がある時点から、約3ヶ月が目安(3ヶ月以内でも他人に感染させる可能性はある)

奈良県感染症情報

令和6年 第20週(5月13日～5月19日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|--------------|-------|-----------|----|----|----|
| | | 定点当たり | 増減(前週) | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 5.44 | (4.50) ↗ | → | ↑ | ↑↑ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 4.82 | (2.53) ↑ | ↑ | ↑ | ↘ |
| 3 | 手足口病 | 4.00 | (2.35) ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症 | 3.35 | (2.67) → | → | ↘ | ↗ |
| 5 | RSウイルス感染症 | 2.62 | (3.35) ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の定点あたり報告数は5.44で、前週の4.50から増加しています。食事の前やトイレの後は必ず手を洗い、食品を衛生的に取り扱う等、感染予防対策をお願いします。
 A群溶連菌咽頭炎の定点あたり報告数は4.82で、前週の2.53から増加しており、地域別では中和保健所管内西部地域の定点あたり報告数が13.33と特に多くなっています。A群溶連菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による上気道の感染症で、学童期の小児に最も多くみられます。人との接触の機会が増えるときに起こりやすく、家庭や学校での集団での感染も多いため、うがいや手洗などの感染対策を心がけましょ。
 手足口病の定点あたり報告数は4.00で、過去5週間平均数と比べて急増しています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染で、子供同士の生活距離が近く、濃厚接触が生じやすい環境である保育施設や幼稚園では集団感染が起こりやすくなります。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用は避けましょ。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

インフルエンザは減少した。COVID-19は1例のみ。学童では溶連菌感染症、幼児では発熱が先行して皮膚症状がその後出現する手足口病が見られる。RSウイルス感染症は続いていて、咳のみが続いていたが受診していたかった学童が発熱のため受診してマイコプラズマ感染症と判明した。遷延する咳と発熱の患児では、各種迅速検査キットが陰性の者が多い。
 アトピー性皮膚炎にブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群が併発した症例があった。

中部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザは見られなくなった。COVID-19例もなかった。
 腸炎が流行、経過は短期で軽症。呼吸器感染症があるがRS陽性例はなかった。
 マイコプラズマを疑う例も増加した。A群溶血性連鎖球菌が続いてみられる。手足口病は減少してきた。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ウイルス性胃腸炎が増加している。
 インフルエンザは終息してきている。COVID-19の陽性者も減少している。
 手足口病が増加傾向にある。
 遷延する呼吸器感染症ではトメタニューモウイルス感染、ライノウイルス感染、特にパラインフルエンザが型ウイルス感染が散見され、気管支炎や肺炎合併例では入院加療を必要とした。

奈良県感染症情報

令和6年 第21週(5月20日～5月26日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 手足口病 重症化待!
- 細菌性食中毒 食中毒を予防するためには

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|--------------|-------|-----------|----|----|----|
| | | 定点当たり | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 6.09 | (4.00) ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.38 | (5.44) → | → | → | → |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 4.65 | (4.82) ↑ | → | ↑ | → |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症 | 3.49 | (3.35) → | → | → | → |
| 5 | RSウイルス感染症 | 2.29 | (2.62) ↓ | → | ↓ | ↓ |

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数 (疾患毎に、基準値を定めています)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

手足口病の定点当たり報告数が6.09で基準値「5」を超え警報発令となりました。県内全域で急増しています。感染経路は飛沫感染、接触感染、業口感染で、保育施設や幼稚園では集団感染が起りやすいです。主に夏に流行し、ほとんどの発病者は数日間に治りますが、まれに中枢神経系の合併症や心筋炎、急性弛緩性麻痺など、さまざまな症状が出る場合があります。かかった子供の経過は注意深く観察してください。予防策は、流水と石けんで手を洗う、タオルの共用は避ける、排泄物は適切に処理するなどです。
 A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は4.65で、中部と南部では前週より増加しています。接触感染予防のため、うがいや手洗いなどを心がけましょう。細菌による感染症で、抗菌薬による治療が可能です。

◆細菌性食中毒◆

食中毒には、細菌やウイルス等によって腹痛・下痢・嘔吐などを発症する、感染症が含まれます。食中毒の中でも、食品中や体内で一定数以上に増殖した細菌の感染や、細菌が増殖する際に産生した毒素によって引き起こされるものを細菌性食中毒とよびます。代表的な原因菌は、腸管出血性大腸菌(O157、O26、O111など)や黄色ブドウ球菌、カンピロバクター菌、サルモネラ菌などがあげられます。これらの細菌の多くは、室温(約20℃)で活発に増殖し始め、人間の体温ぐらいの温度で増殖のスピードが最も速くなります。また、細菌の多くは湿気を好みます。そのため例年、梅雨時や夏期には特に細菌性食中毒の発生が多くなります。

◆食中毒を予防するためには◆

- ① つけない
手に付着している雑菌を食品に付けないように、調理や食事を始める前、トイレに行った後など、こまめに手を洗いましょ。また、生の肉や魚などに触れた器具から他のものへ菌が付着しないように、使用の都度きれいに洗浄し、できれば殺菌しましょう。器具の使い分けも効果的です。
- ② ふやさない
食べ物に付着した菌を増やさないためには、低温で保存することが重要です。肉や魚などの生鮮食品は、購入後できるだけ早く冷蔵庫に入れましょう。また、アイスクリームやデザート類は長時間室温で放置せず、早めに食べるようにしましょう。
- ③ やつつける
ほとんどの細菌は加熱によって死滅します。食品は中心部温度75℃、1分以上を目安にしっかりと加熱しましょう。ふきんや調理器具は、洗剤でよく洗ってから熱湯をかけて殺菌する効果的です。

奈良県感染症情報

令和6年 第22週(5月27日～6月2日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健健康センター)
https://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 手足口病 重症化待!
- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|--------------|-------|----------|----|----|----|
| | | 定点当たり | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 6.68 | (6.09) ↑ | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.18 | (5.38) → | → | → | → |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.79 | (4.65) → | → | → | → |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症 | 3.36 | (3.49) → | → | → | → |
| 5 | RSウイルス感染症 | 1.53 | (2.29) ↓ | → | ↓ | ↑ |

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少数 (疾患毎に、基準値を定めています)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、→やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

手足口病の定点当たり報告数が6.68で前週の6.09から増加しており、警報発令中です。県内全域で流行しており、吉野保健所管内を除く全ての地域において警報基準値である「5」を超えています。手足口病に有用なワクチンはなく、また発病を予防できる薬もありません。流水と石けんでしっかりと手を洗い、タオルの共用を避けるなどして感染予防対策をお願いします。
 A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は3.79と、まだ多い状況が続いています。地域別では中和保健所管内西部地域において9.50と特に高くなっており、注意が必要です。通常、患者との接触を介して伝播するため、人との接触の機会が増加するときに起こりやすくなります。手洗いやうがいを心がけましょう。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり報告数は3.36で、前週の3.49と比べて横ばいですが、入院基幹定点報告状況に増加が見られます。今後の動向に注視していきます。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

手足口病は流行中、発熱が先行する症例も多い。
 溶連菌感染症は学童を中心に続いている。同検査キットが不足している。
 家族内感染のCOVID-19が見られる。乾性咳と発熱の学童ではマイコプラズマ感染症がある。

中部地区(福本内科子どもクリニック)

COVID-19はごく稀に見られる程度、インフルエンザはB型が1件あったほかは見られなくなった。
 A群溶連菌連鎖球菌感染症が増加。家族陽性で咽頭痛のみの無熱の学童例や、十分な抗生剤投与後の再感染例もあった。
 ヘルパンギーナが少し。手足口病は減少してきている。
 感染性肺炎はほぼ横ばいで持続。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病が急増している。典型的症状で軽症で経過する例が多い。
 またヘルパンギーナも増加している。
 溶連菌感染症やアデノウイルス咽頭炎は横ばい、インフルエンザは終息してきたが、COVID-19は再び増加している。



奈良県感染症情報

令和6年 第23週(6月3日～6月9日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

手足口病
重症化中!

今週の概要

- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)について
- 5月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 南部 |
|----|--------------|-------|--------|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | |
| 1 | 手足口病 | 8.09 | (6.68) | ↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.74 | (5.18) | ↑ | → |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 4.12 | (3.79) | → | ↑↑ |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症 | 3.51 | (3.36) | → | → |
| 5 | RSウイルス感染症 | 1.50 | (1.53) | ↓ | ↑ |

発生状況: **大流行** 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

手足口病の定点当たり報告数は8.09で前週の6.68から増加しており、警報発令中です。奈良県内のすべての地域で警報基準値である「5」を越え、さらなる感染拡大が懸念されます。流水と石けんでのしっかりと手を洗い、タオルの共用を避けるなど、引き続き感染予防対策をお願いします。

A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は4.12で前週の3.79から増加しています。地域別では中和保健所管内西部地域において10.83と特に高くなっており、また吉野保健所管内地域において、過去5週間平均数と比べて急増しています。手洗い・やうがい・心を心がけましょう。

◆劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)について◆

劇症型溶血性レンサ球菌感染症(STSS)は、急激かつ劇的な病状の進行を特徴とする致死率の高い感染症です。STSSは、1992年に日本における最初の症例が報告されて以降、年間100人から200人ほどの患者が確認されてきましたが、近年、届出報告数に増加傾向がみられ、2023年の届出報告数は941人(速報値)となり、1999年に統計を取り始めて以降、最多であった2019年を上回りました。

2024年も引き続き届出報告数の増加が見られており、6月2日時点の全国の届出報告数は977人(速報値)と、昨年の届出報告数ですでに上回っています。

主な病原体はA群溶血性レンサ球菌です。A群溶血性レンサ球菌による一般的な疾患は咽頭炎で、主に小児が罹患します。一方で、STSSは子どもから大人まで広範囲の年齢層に発症し、特に30歳以上の大人に多いのが特徴のひとつで、免疫不全などの重篤な基礎疾患をほとんどもっていないにもかかわらず、突然発病する例があります。

初期症状としては四肢の疼痛、腫脹、発熱、血圧低下などで、発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、発病後数時間以内には軟部組織壊死、多臓器不全などを引き起こし、ショック状態から死にいたったこともあります。患者のうち約30%が死亡しており、メディアなどで「人食いバクテリア」といった名称で取り上げられることがあります。

感染予防対策としては、手洗い・やうがい等の基本的な対策に加え、擦り傷などの傷口を清潔に処置することも重要です。疑わしい症状が現れた場合には、速やかに医療機関を受診しましょう。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症(厚生労働省HP) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/hunya/0000137555_00003.html
 国内における劇症型溶血性レンサ球菌感染症の増加について(国立感染症研究所HP)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/group-a-streptococcus/m/2656-cepr/12594-stss-2023-2024.html>



奈良県感染症情報

令和6年 第24週(6月10日～6月16日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<https://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

手足口病
重症化中!

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|--------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 8.85 | (8.09) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.41 | (5.74) | → | → | → | → |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 4.03 | (4.12) | → | → | → | ↑ |
| 4 | 新型コロナウイルス感染症 | 3.49 | (3.51) | → | → | → | → |
| 5 | RSウイルス感染症 | 0.79 | (1.50) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |

発生状況: **大流行** 流行 やや流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 ※新型コロナウイルス感染症等、基準値のない疾患については発生状況の評価を行っておりません。
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**→**やや増加、**→**横ばい、**↓**やや減少、**↓↓**減少

◆県内概況◆

手足口病の定点当たり報告数は8.85で前週の8.09からさらに増加しており、警報発令中です。奈良県内のすべての地域で流行が見られ、特に吉野保健所管内地域においては、過去5週間平均数と比べて急増しています。感染経路は、飛沫感染、接触感染及び糞口感染であり、この病気がかかると小さい年齢層の乳幼児が集団生活している保育園や幼稚園などでは特に注意が必要です。おむつを交換する時には、排泄物を適切に処理し、流水と石けんでのしっかりと手を洗いましょう。

A群溶連菌咽頭炎の定点当たり報告数は4.03と、まだ多い状況が続いています。通常、接触を介して伝播するため、患者との濃厚な接触を避け、手洗い・やうがい・心を心がけましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(田中小児科医院)

手足口病はピークを超えてきている感じがある。溶連菌感染症の症例数に変化はない。発熱と咳が長くウイルス性とと思われる気管支炎が多くなっており、CRPなどの炎症反応が強くなり、抗菌剤投与する例が増えている。中には気管支肺炎となり紹介入院となる例がある。典型的なヘルパンギーナはなかった。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

インフルエンザは見られなかった。COVID-19はごくまれに見られる程度となった。乳幼児で咳嗽の例があるがRS陽性例はなかった。ヘルパンギーナ、アデノ例は減少。手足口病も減少傾向。A群溶血性連鎖球菌が持続している。感染性肺炎は嘔吐・下痢・発熱・呼吸困難の例が主となってきている。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病の流行が落ち着いた。ヘルパンギーナも増加している。アデノウイルス感染症は散見されるが、溶連菌陽性例は多い。嘔吐・下痢・発熱・おたまり・ウイルス性胃腸炎が増えている。COVID-19陽性例は増加せず横ばいが続いている。遷延する呼吸器感染症ではパラインフルエンザ3型ウイルス陽性例が多く、肺炎合併、入院加療を必要とする場合もみられる。ヒトメタニューモウイルスや肺炎球菌陽性例もみられる。